

## トカラ列島（中之島・平島）のアクセントと語彙

田尻, 英三  
鹿児島大学教育学部講師

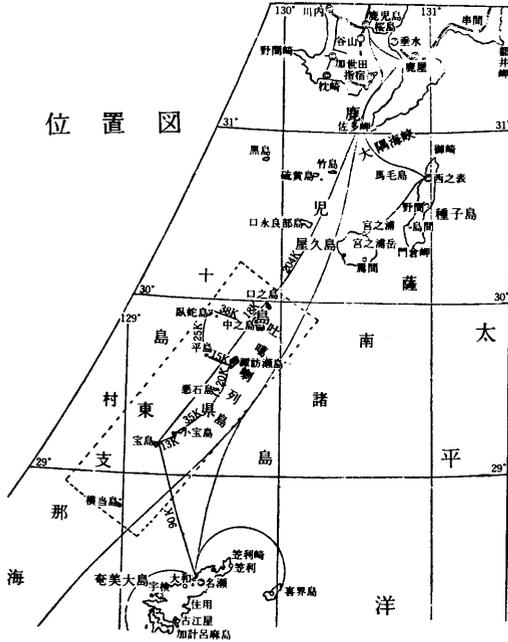
<https://doi.org/10.15017/12128>

---

出版情報：語文研究. 39/40, pp.46-56, 1975-06-01. 九州大学国語国文学会  
バージョン：  
権利関係：

# トカラ列島（中之島・平島）のアクセントと語彙

田尻 英三



トカラ列島は、屋久島と奄美大島との間に点在する八つの島々である。この八島には、口之島・中之島・臥蛇島・平島・諏訪之瀬島・悪石島・小宝島・宝島などが属するが、このうち、諏訪之瀬島は奄美大島の笠利町からの移住者が殆んどで、残りは所謂ヒツピーとよばれる連中が住んでいる。また、臥蛇島は現在無人島である。

このトカラ列島の方言については、<sup>(1)</sup> 敷根利治・吉町義雄・上村孝二・家村睦夫などの研究のほか、<sup>(2)</sup> 専著として平山輝男編「薩南諸島の総合的研究」第三編 言語（以下「薩総」と略称）があり、これには参考文献目録が付されている。

<sup>(3)</sup> 上村孝二によれば、南九州方言を薩隅方言・離島方言・種子島方言・東諸島方言の四種に分類し、離島方言の一つとしてトカラ方言をあげ、更に小宝島・宝島の南部方言と残余の島々の北部方言とに分類しておられる。

まずトカラ方言のアクセントについて述べると、「薩総」では小宝島・宝島が崩壊アクセント、他の島々は以下述べるが如き薩隅方言と同じ二型アクセントという事になっている。中之

島のアクセント体系は次の如くである。

拍	音韻論的解釈	反省的型	語 例
1	$\begin{array}{l} / \circ / \\ / \bar{\circ} / \end{array}$	$\begin{array}{l} \bullet \\ \bullet \end{array}$	$\bar{q}i$ (日) $q\bar{i}$ (火)
2	$\begin{array}{l} / \bar{\circ}\bar{\circ} / \\ / \bar{\circ}\bar{\circ} / \end{array}$	$\begin{array}{l} \bullet\circ \\ \circ\bullet \\ \bullet\bullet \end{array}$	$\bar{h}a\ na$ (鼻) $ha\ \bar{n}a$ (花) $\bar{i}n$ (犬)
3	$\begin{array}{l} / \circ\bar{\circ}\bar{\circ} / \\ / \circ\bar{\circ}\bar{\circ} / \end{array}$	$\begin{array}{l} \circ\bullet\bullet \\ \bullet\bullet\circ \\ \circ\bullet\bullet \\ \circ\bullet\bullet \end{array}$	$katsu\ o$ (鏝) $to\ :da$ (飛んだ) $u\ na\ gi$ (鰻) $ga\ :su$ (烏)

尚、同島では三拍以上のB型の語で一拍だけを卓立することが少なく、二拍以上連続して高音を保つ傾向が強い。ただし、「いじゃ」が付くと、「じゃ」の前に「さがりめ」があり、また、「い」が付いても、その次に「さがりめ」がある。したがって音韻論的には三拍B型は $\circ\bar{\circ}\bar{\circ}/$ に、四拍B型は $\circ\bar{\circ}\bar{\circ}\bar{\circ}/$ のように解釈される。

口之島・平島の方言も、おおまかには、この中之島方言と共通であるが、三拍以上のアクセント節のB型で、一拍だけ卓立するのが目立つ。

また、中之島方言では、三拍以上のA型に助詞が付いて派生

節を作っても、アクセントの山は動かないのが一般であるが、口之島方言の青年層では鹿児島方言のように山が移動する傾向が見られ、平島方言などではむしろ移動する方が一般である。すなわち、A型において助詞の直前まで山が移動して、その山の拍だけを卓立させ、その拍の次に「さがりめ」を持つのは鹿児島方言の特色であるが、平島方言では、ほとんどこの点においては鹿児島方言と一致している。

以上が、「薩総」におけるトカラ方言アクセントの記述であるが、平島・中之島のアクセントは、筆者の調査によれば多型アクセントである。(この差は、或いは被調査者の違いによるものであろうか。特に、中之島には奄美大島からの開拓部落がある事など関係するかもしれない。)以下に具体例をあげる。

中之島の日高岩吉(六九才)の一・二・三音節名詞のアクセントは次の如くである。

一音節名詞

- ・●▼……蚊・子・身<sup>(6)</sup>、名<sup>(2)</sup>、木・火<sup>(3)</sup>
- ・○▼……手<sup>(3)</sup>

二音節名詞

- ・○●▼……竹・鼻・牛・蜂<sup>(1)</sup>、池<sup>(3)</sup>、桶<sup>(5)</sup>
- ・○●▼……川・旗・胸・石・紙・人・歌・橋<sup>(2)</sup>
- ・○●▼……水・道<sup>(1)</sup>
- ・○●▼……山・犬・足・耳・馬・皮・島・花・波<sup>(3)</sup>
- ・○●▼……針・松<sup>(4)</sup>、雨・声・秋・猿・蛇・糸・稻・肩・鎌・海・舟・帯・箸

蜘蛛・蔭・春(5)

三音節名詞

○●○○●●▼……小豆・二人(2)、朝日・命・涙(5)

5)

○●●●○○●●▼……男・袋(4)、鰻・背中・鼠・高さ(6)、兜・鯨・葉(7)

(6)、兜・鯨・葉(7)

○●○○○○●●▼……二十才・小麦(3)、女・宝(4)

○●●○○●●▼……鯛・水・机・隣(1)

なお、二音節名詞のうち、下駄(4)は、●○○●○▼というアクセントだが、一応右表からはずした。このアクセント体系については、日高平蔵(七六才)も同様の体系を示す。それに対し、竹内留吉(六三才)のアクセント体系は次の如くである。

一音節名詞

●●●●▼……蚊・子(1)、(葉(2))

●○○▼……日(2)、手・火・木(3)

二音節名詞

●○○●●▼……竹・鼻・牛・首・蜂・水・道(1)、川

・旗・胸・石・紙・夏・橋・冬・歌(2)

足・月・花(3)、糸・稻・肩・舟・箸

(4)

○●○○●●▼……山・犬・耳・皮・島・波(3)、鎌・海

・帯・針(4)、雨・井戸・桶・声・秋

・蛇・蔭(5)、口(1)、人(2)

三音節名詞

○●●●○○●●▼……男・鏡・袋(4)、命・涙・蝶(5)

鰻・背中・鼠・高さ(6)、兜・鯨

葉(7)、鯛(1)

○●○○○○●●▼……水・机・隣(1)、小麦(2)、女

・宝(4)

この竹内留吉のアクセントは、調値こそ異なるが、調類では薩隅方言と同じ二型アクセントを示している。この差異を解釈するにあたり、平島のアクセントが参考になるので以下に掲げる。平島の被調査者は次の方々である。

日高福太郎(五四才)、松下武義(四五才)、日高勝則(四六才)、日高利雄(五三才)

一音節名詞

●●●○○……蚊・子・身(1)、名・葉(2)、尾・手(3)

●○○▼……日(2)、木・火(3)

二音節名詞

●○○●●▼……鼻・首・水・蜂・道(1)、夏・橋・冬

(2)、肩(4)

○●○○○○▼……胸・石・歌(2)、犬(3)

○●○○●●▼……金(1)、川・町・人(2)、山・足・

月・耳・皮・島・花・波(3)、糸・稻

・鎌・舟・海・帯・松(4)、雨・桶・

声・秋・蛇・蔭・春(5)

三音節名詞

○●●○○●●▼……水・机・隣(1)、間・小豆(2)

男・鏡・宝・袋(4)、命・涙(5)  
 鰻・背中・鼠(6)、兜・鯨・葉・  
 便(7)

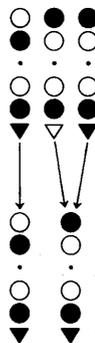
○●○○●●▼………蜥蜴(1)、二人(2)、力・二十  
 才・小麦(3)

なお、二音節名詞のうち、針・下駄(4)のアクセントは、  
 ●○○●○▼となる。

二音節名詞についてみると、平山輝男のあげておられる●○○●○▼、○○●●●▼以外に、●○○●○▼のアクセント型がみとめられる。竹内留吉の二種のアクセント(これととも、薩隅方言の二型アクセントとはかなり性質を異にするが)の場合、助詞「が」をつけると、いずれも尾高平板型(無核型)になる。三音節名詞についても同様の傾向がみられる。

これらの例より考えるに、中之島・平島とも本来二音節名詞のアクセントは、日高岩吉、日高平蔵両氏にみられる如き●○○●○▼、●○○●○▼、○○●●●▼の三種があり(これは三音節名詞のアクセントに○○●●●▼、○○●●●▼、○○●●●▼、○○●●●▼などの型がある事によっても傍証される。)  
 ●○○●○▼が●○○●○▼に統合されて行く事により、竹内留吉の如き二型アクセントへと移行したのであり、平島のアクセントはその移行過程を示しているのである。即ち、平島においては、二音節名詞のアクセントは中之島の日高岩吉・日高平蔵の如き型を示しながら、三音節名詞のアクセントの型は竹内留吉と同じ二型を示しているのである。

図示すると次の如くである。



また、ここで注意すべきは、これら多型アクセントを示している被調査者の二音節名詞のアクセントにおいて、1類と2類とを●○○●○▼と●○○●○▼という調値で区別する傾向がみられる事である。このように二音節名詞の1類と2類とを区別するアクセントは、九州方言・琉球方言を含めてその存在が報告されていない。この分布等については、今後の研究にまたねばならないが、中之島・平島の二音節名詞のアクセントが三種ある事についても、アクセント史の系統論等に新たな問題を呈するものである。

因みに、「薩総」により他の島々のアクセント分布をみると口の三島(竹島・琉黄島・黒島)、種子島(但し、南種子町は崩壊アクセント)、屋久島・口永良部島は二型アクセント(1・2類対3・4・5類)、奄美大島は地域により1・2類対3・4・5類、1・2・3類対4・5類の対応をする二型アクセント、また、一型アクセント・崩壊アクセントなどを示す。中種子町・西表市のアクセントについては、上村孝二が問題点を指摘している。)

いまここで、この中之島・平島のアクセント体系をもとに、アクセントの系譜を構築する余裕はないが、例えば、徳川宗賢の「日本諸方言アクセントの系譜」試論」によって、位置づけ

を試みれば、第二次アクセントの西日本アクセント（1類対2類対3類対4・5類）から派生した第三次アクセントの四種（1類対2・4・5類対3類、1・2類対3類対4・5類、1類対2・3類対4・5類、1・2類対3類対4・5類）の他に1類対2類対3・4・5類の一種を加える事になる。また、勿論このような地域のみならず、奄美諸島を含む琉球方言アクセントの系譜再構にも関連する事である。（なお、奥村三雄先生に對馬方言との関連で九州方言アクセントの系譜について言及なさっている論文があるが、ここではふれない。）

音韻については、『薩総』において記述されているので、こ

こでは改めてふれないが、同書で中之島ではみられないとして若干認められるものである。

語彙については、『薩総』に五八八語につき、中種子・宮之浦・尾之間・黒島・宝島・名瀬・鹿児島・京都・東京の九地点の語彙対照表が掲げられている。以下、トカラ列島の中央に位置する十島村の中之島における調査にもとづき、その名詞語彙の一部を掲げる。但し、その場合比較の便のため、口の三島の一つ黒島とトカラ列島の最南端に位置する宝島の語彙を『薩総』より転用させていただく。

	黒 島	中之島	宝 島
こ	れ (koi)	(koi)	(koi)
そ	れ (soi)	(soi)	(soi)
あ	れ (ai)	(ai)	(ai)
ど	れ (doi)	(doi)	(doi)
何	(nai)	(nani)	(nani)
力	(tjikara)	(ziki)	(tjikara)
毎	日 (mainitji)	(menitji)	(menitji)
大	晦日 (o: misoka)	(o: misoka)	(misoka)
正	月 (jo: gwatsu)	(jo: gatsu)	(jo: gwatji)
昼	(qiru)	(qiu)	(qi:)
晩	(ban)	(ban)	(ban)
夕	方 (ju:gata)	<sup>10</sup> N.A.	(jogoté:)
今	日 (kjo:)	(kjo:)	(kju:)
昨	日 (kinjo:)	(kinjo:)	(kino:)
一	昨日 (otte:)	(otote:)	(ototé:)
明	明日 (fiasatte)	(sasatte)	(fiasatte)
前	(mae)	(mae)	(mae)
後	(ufiro)	(ufio)	(ato)
す	ぐ (ikki)	(ikki)	(sugu)
跡	(ato)	(ato)	(ato)
こ	ちら (kottji)	(kottji)	(kottji)
そ	ちら (sottji)	(sottji)	(sottji)
あ	ちら (attji)	(attji)	(attji)
ど	ちら (dottji)	(dottji)	(dottji)
東	(qigaji)	(qigaji)	(qigaji)
西	(niji)	(niji)	(niji)
南	(minami)	(minami)	(minami)
北	(kita)	(kita)	(kita)
左	(qidari)	(qidai)	(qidai)
右	(migi)	(migi)	(migi)

あなたがた	(waidomō)	(omaitatʃi)	(omaitatʃi)	上	(ue)	(ue)	(ue)
お前	(ware)	(wai)	(wa)	下	(jita)	(jita)	(jita)
お前ら	(waidomō)	(wantatʃi)	(wagatatʃi)	まん中	(mannāka)	(mannāka)	(mannaka)
誰	(dai)	(dai)	(dai)	地面	(tʃinen)	(ʒida)	(dʒida)
人間	(niggen)	(huto)	(niggen)	間	(aida)	(aida)	(aida)
神	(kamī)	(kami sama)	(kami)	中	(naka)	(naka)	(naka)
男	(otokō)	(otokō)	(otoko)	外	(soto)	(soto)	(soto)
女	(onago)	(onago)	(onago)	傍	(sobā)	(hata waki)	(hata)
子供	(kodomo)	(kodomo)	(kodomo)	まわり	(mawari)	N. A.	(guru)
大人	(ojadomō)	(ofe)	(ofe)	形	(katatʃi)	(kata)	(katatʃi)
若者	(wakka mon)	(nise wakakamon)	(nise:) <sup>14</sup>	角	(kaku)	(kaku)	(kaku)
老人	(ondʒo:)	(ʒi: tojimamon)	(toʃiwoi)	穴	(ana)	(ana)	(ana)
婿	(muko)	(muko)	(muko)	入口	(irigutʃi)	(i:gutʃi)	(i:gutʃi)
嫁	(jome)	(jome)	(jome)	ひとつ	(çitotsu)	(çitotsu)	(çitotsu)
夫	(tonodʒo)	(tonodʒo: oʒaʒi)	(otto)	ふたつ	(Futa:tsu)	(Futatsu)	(Futatsu)
妻	(omo)	(utʃikata)		みつ	(mittsu)	(mittsu)	(mittsu)
親	(oʒa)	(oʒa) <sup>15</sup>	(oʒa)	よっつ	(jottsu)	(jottsu)	(jottsu)
父	(toto)	(ottohan)	(toto)	いっつ	(itsutsu:)	(itsutsu)	(itsutsu)
母	(kaka)	(okkahan)	(kaka)	むっつ	(muttsu)	(muttsu)	(muttsu)
祖父	(dʒi:)	(ʒi:san ʒi:)	(dʒi:)	ななつ	(nanatsu)	(nanatsu)	(nanatsu)
祖母	(baba)	(ba:san baba)	(mma)	やっつ	(jattsu)	(jattsu)	(jattsu)
息子	(musuko)	(otoko noko)	(otokonko)	ここのつ	(koko notsu)	(koko notsu)	(koko notsu)
娘	(musume)	(onago noko)	(wona gongko)	とお	(to:)	(to:)	(to:)
孫	(mago)	(mago)	(mago)	いくら	(dofiko)	(dofiko)	(ikura)
兄弟	(kjo:dai)	(kjo:rai)	(kjo:dē:)	いくつ	(ikutsu)	(dofiko)	(ikura)
兄	(anjo:)	(anʒo: ansan)	(andʒo:)	一回	(iddo)	(itʃiro)	(ippen)
姉	(ane)	(anne:)	(annja)	半分	(hambun)	(hambun)	(hambun)
弟	(ototo)	(ototo)	(ototo)	両方	(rjo:ho:)	(Futatsu) <sup>12</sup>	(dʒ:ho:)
妹	(imo:to)	(imo:to)	(imo:to)	私	(oi)	(oi)	(oi)
おじ	(odʒi:)	(oʒisan)	(odʒi)	私ども	(oidomo)	(oidomo)	(oidomo)
おば	(baba)	(obasan)	(oba)	あなた	(ware)	(omai wai) <sup>13</sup>	(omai)

棒切れ	[bō:]	(bō:]	(bō:gire)	甥	[ōi]	(ōi]	(oi]
釘	[kugi]	(kugi]	(kugi)	姪	[mei]	(mei]	(mei)
杖	[tsue]	(tsue]	(tsue)	いとこ	[itoko]	(itoko]	(itoko)
綱	[tsuna]	(tsuna]	(tsuna)	友だち	( <sup>tomō</sup> datji]	( <sup>tomōratji</sup> doji]	(doji)
紐	[qimo]	( <sup>qimō</sup> qibo]	(qibo)	上手	[ʒo:zu]	(ʒo:zu)] <sup>18</sup>	(dʒo:dzu)
綿	[wata]	(wata]	(wata)	大工	[daiku]	(de:kū]	(de:ku)
糸	[ito]	(ito]	(ito)	盗人	[nusudo]	(nusuto]	(nusuto)
布	[kire]	(kiē]	(kire)	町	[matji]	N.A.	(matji)
絹	[kinu]	(kinu]	(kinu)	村	[mura]	(buwa]	(mura)
着物	[kimon]	(i:ō:]	(kimon)	心	[kokoro]	(koko:]	(kokoro)
褌	[Fundōji]	( <sup>ma</sup> waji]	(Fundōji)	心配	[jimpai]	(jimpai]	(jimpai)
帯	[obi]	(obi]	(obi)	声	[koē]	(koē]	(koe)
履物	[Fummon]	( <sup>hakimōn</sup> hakimon]	(hakimon)	嘘	[uso]	(uso]	(uso)
下駄	[geta]	(geta]	(geta)	言葉	[kotoba]	(kotoba]	(kotoba)
指輪	[ibigane]	( <sup>ibi</sup> gane <sup>jubi</sup> wa)] <sup>18</sup>	(ibigane)	名前	[namae]	(na]	(namai)
食物	[ku:mōn]	(kuimōn]	(ku:mon)	字	[ʒi:]	(ʒi]	(dʒi)
粥	[okai]	(kai]	(boro:)] <sup>19</sup>	しるし	[jiruʒi]	(jiruʒi]	(jiruʒi)
味噌汁	[misoʒiru]	(misoʒur]	(misoʒur]	本(書物)	[jomotsu]	( <sup>jomotsu</sup> hon)]	(jomotsu)
米	[kome]	(kome]	(kome)	結(労働交換)	[ju]	( <sup>ka</sup> tame ʒigoto)]	(katame ʒigoto)
肉	[niku]	(niku]	(niku)	朝食	[asameʒi]	(asameʒi]	(asameʒi)
砂糖	[sato:]	(sato:]	(sato:]	昼食	[tʒu:han]	(qimeʒi]	(qimmeʒi)
塩	[jiwo]	(jiō]	(jiwo)	夕食	[jomeʒi]	( <sup>jo</sup> meʒi bammeʒi)]	(jomeʒi)
菓子	[kwaʒi]	(kwaʒi]	(kwaʒi)	入墨	[irezumi]	(irezumi]	(iredzumi)
茶	[tʒa]	(tʒa]	(tʒa)	葬式	[so:ʒiki]	(so:ʒiki]	(tomure:)
酒	[ʒo:tʒur]	(ʒo:tʒur]	(sake)	旅	[tabi]	(tabi]	(tabi)
煙草	[tabako]	(tabako]	(tabako)	紙	[kami]	(kami]	(kami)
薬	[kusui]	(kusui]	(kusui)	板	[ita]	(ita]	(ita)
家	[je]	(je]	(je)	薪	[takemon]	(takimon]	(takimon)
蜘蛛の巣	[kumonsu]	(kubunosu]	(kobunje)	炭	[sumi]	(sumi]	(sumi)
墓	[haka]	(haka]	(haka)	油	[abura]	(abua]	(abura)
牛小屋	[uʒigoʒa]	(uʒigoʒa]	(uʒigoʒa)	車	[kuruma]	(ku:ma]	(karuma)

鏡	{kagami}	{kagami}	{kagami}	便所	{settjin}	{manaka}	{manaka}
船	{Fune}	{Fune}	{Fune}	柱	{hafira}	{hafira}	{hafira}
帆	{ho}	{ho}	{ho}	天井	{tenjo:}	{tenjo:}	{tendjo:}
田	{ta}	{ta}	{ta}	床	{juka}	{ika}	{ika}
畑	{hatake}	{hatake}	{hatake}	棚	{tana}	{tana}	{tana}
道	{mitji}	{mitji}	{mitji}	蓋	{Futa}	{Futa}	{Futa}
橋	{haji}	{haji}	{haji}	徳利	{tokkuri}	{tokkui}	{tokkui}
井戸	{kawa}	N.A.	{kawa}	壺	{tsubo}	{tsubo}	{tsubo}
稻妻	{inazuma}	{inazuma}	{inabikai}	桶	{oke}	{oke}	{oke}
蔭	{kage}	{kage}	{kage}	箱	{hako}	{hako}	{hako}
色	{iro}	{i o}	{iro}	袋	{Fukuro}	{Fukuro}	{Fukuro}
音	{oto}	{oto}	{oto}	俵	{tawara}	{tawara}	{tawara}
味	{adzi}	{adzi}	{adzi}	椀	{goki}	{goki}	{goki}
岩	{iwa}	{iwa}		鍋	{nabe}	{nabe}	{nabe}
石	{iji}	{iji}	{iji}	箸	{haji}	{haji}	{haji}
砂	{suna}	{suna}	{suna}	まな板	{kiriban}	{maneta}	{maneta}
土	{tsuti}	{tsutsu}	{dor o}	歟	{kwa}	{to:ga}	{to:gwa}
泥	{doro}	{doru}	{doru}	臼	{usu}	{usu}	{usu}
埃	{hokori}	{hokoi}	{hokoi}	杵	{kine}	{kine}	{kine}
煙	{kemuri}	{kemui}	{kebui}	櫛	{kai}	{ke}	{jako}
煤	{susu}	{susu}	{susu}	針	{hari}	{hari}	{hai}
灰	{ha}	{he}	{Fe}	針穴	{hainome}	{hainoana}	{hainome}
垢	{jogere}	{jogoe}	{jogoe}	櫛	{kuji}	{kuji}	{sabaki}
水	{midzu}	{mizu}	{midzu}	罌	{wana}	{wana}	{wana}
湯	{ju}	{ju}	{ju}	刃	{ha}	{ha}	{ha}
泡	{awa}	{bukku}	{buku}	刀	{katsuna}	{katana}	{katan}
雷	{kami nari}	{kami naidon}	{kaminai}	小刀	{kogata}	{kogata}	{kogatan}
地震	{nae}	{nae}	{dzjin}	斧鎌	{joki}	{joki}	{joki}
風	{kadze}	{kaze}	{kadze}	鎌	{kama}	{hama}	{hama}
暴風	{o:kaze}	{te:Fu}	{te:Fu}	鉞	{hasami}	{hasami}	{hasami}
東風	{kotsig kaze}	{kotsino kaze}	{kotji}	鋸	{noko}	{noko}	{noko}

落花生	{rakkiŋo:}	{dakraŋo:}	{rakusso}	南風	{haenkazē}	{haē}	{hae}
さつま芋	{karaimo}	{karaimo} {nansu}	{imo} <sup>25</sup>	西風	{nisiŋ} {kaze}	{okibaē} {nifi}	{nifi}
砂糖きび	{sato:} {kibi}	{ōgi}	{kibi}	北風	{kitaŋ} {kaze}	{kitagotsi} {kita}	{kita}
百合	{juri}	{jui}	{i:}	雲	{kumo}	{kumo}	{kumo}
根	{ne·}	{ne}	{ne}	霧	{moja}	{moga} <sup>22</sup> {ki}	{ki:}
夢	{tsuru}	{tsuru}	{kara}	雨	{ame}	{ame}	{ame}
枝	{ēda}	{jedā}	{eda}	虹	{niŋi}	{niŋi}	{nidŋi}
葉	{hā}	{hā}	{hā}	波	{namī}	{namī}	{namī}
花	{hana}	{hana}	{hana}	火	{çi·}	{çi}	{çi}
木の實	{kinomi}	{kinomi}	{kinomi}	天	{sora}	{sora} {tenŋo:}	{ten}
桑の實	{kwanomi}	{kwanomi}	{kwanomi}	日	{çi·}	{çi}	{çi}
動物	{kedamon}	{jotsuasi}	{ikimon}	太陽	{çidon}	{tento:} {sama}	{tendo:} <sup>23</sup>
猿	{sarū}	{sarū}	{saru}	星	{hoŋi}	{hoŋi}	{hoŋi}
鯨	{kuŋira}	{kuŋira}	{kudŋira}	月	{tsuki}	{tsuki}	{tsuki} <sup>24</sup>
鼠	{nezumi}	{nezumi}	{nedzumi}	山	{jama}	{jama}	{jama}
兎	{usagi}	{usagi}	{usagi}	野原	{nowara}	{nobau}	{hara}
猫	{neko}	{neko}	{neko}	川	{kawa}	{kawa}	{kawa}
犬	{in}	{inu} {in}	{in}	泉	{demizu}	{demizu}	{kawa}
牛	{ūji}	{ūji}	{uji}	海	{umi}	{umi}	{umi}
子牛	{kouŋi}	{kouŋi}		島	{ŋima}	{ŋima}	{ŋima}
牡牛	{kotteuŋi}	{otoko} <sup>25</sup> {kotten} {kotte}	{obotŋa}	岬	{misaki}	{misaki}	{saki}
牝牛	{merauŋi}	{onagousi} {merausi} {mba}	{mbausi}	木	{ki·}	{ki}	{ki}
馬	{uma}	{uma}	{mma}	草	{kusa}	{kusa}	{kusa}
豚	{buta}	{buta}	{buta}	野菜	{jase}	{jase:}	{jase:}
鳥	{tori}	{toi}	{toi}	松	{matsu}	{matsu}	{matsu}
雀	{suzume}	N.A.	{sudzume}	竹	{take}	{take}	{take}
燕	{tsubame}	{tsubame}	{tsu ppakuro}	桑	{kwa·}	{kwanoki}	{kwanoki}
鶯	{waŋi}	{waŋi}	{waŋi}	麻	{asa}	N.A.	{asa}
鳩	{hato}	{hato}	{hato}	稻	{ine}	{ine}	{ine}
				粟	{awa}	{awa}	{awa}
				豆	{mame}	{mame}	{mame}

膝	(çidza)	(çizā)	(tsubusi)
肘	(hensiri)	(çizifi:)	(çidzi)
指	(jubī)	(jubī)	(ibi)
胃	(i:)	(i)	(i)
腸	(tfo:)	(tfo:)	(wata) <sup>28</sup>
辜丸	(kintama)	(kintama)	(kintama)
筋肉	(nikū)	N.A.	(kinniku)
皮	(kawa)	(kawa)	(kawa)
毛	(ke·)	(ke)	(ke)
眉毛	(megke)	(me:nokē)	(mabi)
髻	(çige)	(çige)	(çige)
羽	(hane)	(hō:) (horō)	(hane)
鱗	(irikō)	(ju:kō)	(iroko)
骨	(hone)	(hone)	(hone)
齒	(ha·)	(ha)	(ha)
爪	(tsume)	(tsume)	(tsume)
角	(tsuno)	(tsuno)	(tsuno)
血	(tsi·)	(tsi) <sup>29</sup>	(tsi)
淚	(namida)	(namida)	(namida)
唾	(tsudzu)	(tsuzu)	(tsudzu) wē:
屁	(he·)	(he)	(he)
卵	(tamago)	(tamaŋo)	(tamago)
息	(iki)	(iki)	(iki)
咳	(seki)	(seki)	(iki)
欠伸	(akubi)	(akubi)	(akubi)
熱	(netsu)	(netsu)	(netsu)
傷	(kidzu)	(kizu)	
病氣	(bjo:ki)	(bjo:ki)	(jammē:)
盲	(mekura)	(mekuwa)	(mekura)
聾	(tsumbo)	(tsumbo)	(tsumbo:)
瘖	(aza)	(āra)	(adza)

龜	(kame)	(kame) (urajima)	(kame)
蛇	(hebi)	(hebi)	(hebu)
蛙	(kaeru)	(biki)	(biki)
魚	(iō)	(iwo)	(io)
虫	(muji)	(muji) <sup>27</sup>	(mujikera)
頭	(binta)	(binta)	(binta)
首	(kubi)	(kubi)	(kubi)
顎	(agi)	(otoŋe:)	(ago)
咽	(nodo)	(kubi)	(nodo)
顏	(tsura)	(tsura) (tsuwa)	(tsura)
眼	(me·)	(manako)	(me)
鼻	(hana)	(hana)	(hana)
耳	(mimi)	(mimi)	(mimi)
口	(kutji)	(kutji)	(kutji)
舌	(jita)	(jita)	(jita)
肩	(kata)	(kata)	(kata)
胸	(mune)	(mune)	(mune)
乳	(tjitji)	(tjitji)	(tjitji)
腹	(hara)	(hara)	(hara)
臍	(heso)	(heso)	(heso)
腰	(kōji)	(kōji)	(kōji)
尻	(jiri)	(ji:) (ketsu)	(ji:)
陰門	(mandzu:)	(bottī:)	(tsubi)
陰莖	(tjiŋkō)	(kintama)	(tsimpo)
手	(te·)	(te)	(te)
腕	(ude)	(ude)	(eda)
てのひら	(tenocira)	(tenoha:)	(tenoçira)
足	(a:ji)	(a:ji)	(a:ji)
腿	(mōmo)	(mōmo)	(jokone)
脛	(sune)	(tsuto)	(sune)
踵	(atojiri)	(karō)	(sune)

尚、平島・中之島の調査には鹿児島大学学生、井上浩一君の協力を得た。

注

- (1) 『宝島方言集』「方言」二巻一号
- (2) 『吐噺喇諸島方言』「旅と伝説」十三ノ四
- (3) 『薩南諸島方言語法資料』「鹿児島大学文科報告」七号
- (4) 「中之島の方言の音韻について」『鹿児島地理学会紀要』九ノ二
- (5) 「薩隅方言の区画」『日本の方言区画』
- (6) この番号は金田一春彦作製のアクセント類別語彙表の類番号である
- (7) 『国語学』八〇集
- (8) 『学習院大学国語国文会誌』六号
- (9) 「対馬方言の性格」『九州文化史研究所紀要』一八号
- (10) [ɛ:ka]とも言う
- (11) 「夕方」にあたる語がない
- (12) [ɔ:ho:]か
- (13) [wa:]は、大人が子供をよぶ時に使う
- (14) 数根は「サンシユ」と報告している。
- (15) 数根は「ウチカタ」と報告している
- (16) [ɔ:]の方が親近感が強い
- (17) [omɪ]の方が一般的
- (18) [ɪɟʌn]の方が古い
- (19) 数根は「ホーロ」と報告している
- (20) 数根は「タオーラ」と報告している
- (21) [nae]はゆりもどしのあるもので、古い用法

- (22) [ɔ:ɔ:]は高い山にかかる霧をさす
- (23) 数根は「テンド、子・女が使用」と報告している
- (24) 数根は「オトーサン、子が使用」と報告している
- (25) 数根は「カライモ」と報告している
- (26) [koten]の方が古い
- (27) 毛虫は [ɪto]
- (28) 数根は「ワタ、子・女が使用」と報告している
- (29) 魚の血は [ɛ:ɛ]